

事例紹介大学等のプログラム概要【各地域での実施】

〔 近 畿 地 区 〕

1. 京都産業大学（平成 20 年度選定）

プログラムの名称	京産大発ファシリテータマインドの風 ーファシリテーションの定着による学生支援改革
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本取組は、低単位・低意欲学生層向けキャリア形成支援科目においてこれまで蓄積された知見を学生支援領域に拡大し、中間層の学生をも巻き込んだ個の活性化と自律を支援する。キャリア形成支援科目での知見は、対象学生層の細分化されたニーズ、授業運営でのファシリテーションの有効性、科目運営における PDCA サイクルの有効性、の三点に集約されるが、これらをふまえた学生支援事業を下支えするための場「F工房」を開設し、ファシリテーション導入による既存の取組改善、FD/SD 関連ワークショップの立案・開催・評価、および学生による学生のためのツール開発、を展開していく。「F工房」におけるプログラム開発のプロセス、開発されたプログラムが対象学生層に向けて実施されるプロセスの双方においてファシリテーション・スキルが適用されるため、同スキルの定着が学生支援領域において加速され、対象学生層における個の活性化と自律が期待される。</p>	

2. 畿央大学（平成 19 年度選定）

プログラムの名称	健康で規則正しい生活が勉強する学生を創る ー健康・運動・栄養・生活リズムを学び、創出する自律型学生支援プログラム
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本学は「健康と教育」の分野で人間性豊かな専門職業人の養成を行っている。近年、夜更かしをしたり朝食をとらない若者が増え、生活のリズムの乱れが学業に影響するケースがみられる。この問題は、本学健康科学部が教育研究の対象とする健康・運動・栄養の分野にわたっており、また学校教育でも子どもの不規則な生活が問題視されていることから、教育学部にとっても強い関連性がある。そこで、学生が自分自身の健康や食事（栄養）、身体機能（運動）、生活のリズムを客観的データとして把握・分析し、あるべき生活の姿を追究できる環境を全学的に整備することで、規則的で健康的な生活を確立し、将来活躍する専門分野および関連分野に関する知識や姿勢を身をもって学べるよう、本学の学生支援機能を充実させる。それを保証するシステムが「畿央大学総合支援システム KiTss」であり、その一環として、「健康支援システム」を構築する。</p>	

3. 大阪城南女子短期大学（平成 20 年度選定）

プログラムの名称	女子学生のための地域活動力育成プログラム ーミニコミ誌の取材・編集をととしたコミュニケーション教育
<p>（プログラムの概要）</p> <p>コミュニケーション能力、問題解決力、プレゼンテーション能力の育成は、学生支援に欠かせない教育現場での今日的課題である。本学では、この課題に対して、独自に分析した地域「城南エリア」を用い、ここを取材源とする学生主体のミニコミ誌「大阪ほっとコミ」を発信する。</p> <p>そのミニコミ誌の取材・編集・発行のために、全学に基礎科目として「大阪の人と文化 I・II」を設置し、1年次では他の科目と連動させ、学生への動機づけと模擬演習を行い、2年次で女性の視点による実際の取材と編集を行う段階的なカリキュラム編成をした。なお、カリキュラムの運営およびミニコミ誌の編集に関しては、学内に学生支援委員会をおき、各学科の学生支援と全体調整の窓口とする。</p> <p>地域に愛着と理解をもち、自分のことばと視点で取材し、情報を発信できる地域活動力を、2年間をとおして創り出す対人援助職育成の取組であり、大阪の文化に根ざした教育プロジェクトでもある。</p>	